

メダカや植物の地方名などの多様性について

1. メダカに関する方言

(出典：『メダカ乃方言』辛川十歩、柴田武著 未央社(1980))

- ・ 確認されている生物に関する方言の数としては国内最多
- ・ 調査は、昭和 10 年から昭和 47 年までの 37 年間、日本、朝鮮半島、台湾の日本語地域 24,574 地点において実施され、4,680 語の方言を記録
- ・ メダカに関する方言は、年代順に「ザコ」「メダカ」「ハエ」「コメン(ジャコ)」のように変化してきたとされ、変化する前後の方言どうしが混交し複雑化

1	ザコ系	ザコッコ、ザコメ等	茨城・栃木・山梨・福岡・佐賀・熊本・鹿児島
2	ジャコ系	ジャコバイ、ジャコマ等	岡山・滋賀
3	メダカ系	メダカ、メメタカ等	関東、北九州、山口
4	メザコ系	メザコ等	一部を除き全国に分布
5	メタコ系	メイダコ等	山陽道から北九州にかけて
6	メザカ系	メジャカ等	関東地方、西九州
7	ハエ系	ハイ等	福島から熊本の広い地域
8	メンパ系	メンパチ等	三重・愛知・静岡、岡山以西の中国地方
9	ネンパ・ネンブ系	ネンパ・ネンブ等	三重・愛知・中国地方
10	メンタ系	メイタ、メッタ等	中四国から近畿にかけて
11	ミミン系	ミミ、ミミジャコ等	北陸から近畿・中四国
12	コメン系	コマ等	近畿地方

2. 植物に関する方言

(出典：『日本植物方言集成』 八坂書房 編集・発行(2001))

- ・ 資料として用いた『日本植物方言集成』は、(社)日本植物友の会会員により採集された植物方言に、江戸時代以降の文献調査等の情報を加え、植物 2,000 種について方言訳 40,000 語を収録
- ・ 生活に関連の深い植物 31 種(草遊びに用いられる植物、春の七草、建材、農作物、その他身近な植物等)について、方言数をとりまとめ

草遊び(6種類)	タンポポ、ナズナ、オオバコ、オナモミ、スズメノテッポウ、ホオズキ
春の七草(6種類)	セリ、(ナズナ、)ハハコグサ、ハコベ、ホトケノザ、カブ、ダイコン
建材(5種類)	スギ、ヒノキ、マツ、マダケ・タケ、ススキ
農作物(11種類)	イネ、ヒエ、アワ、コムギ、ダイズ、ナタネ、サツマイモ、サトイモ、ジャガイモ、ウメ、カキ
その他身近な植物(3種類)	ヨモギ、サクラ、ササ

- ・ 方言数が150を上回っている植物は7種(ジャガイモ(377)、オオバコ(287)、サトイモ(245)、タンポポ(206)、サツマイモ(177)、ハコベ(169)、ハハコグサ(166))。
- ・ 上記の他、草遊びの対象となる植物としては、ナズナ(101)、スズメノテッポウ(82)、ホオズキ(25)、オナモミ(21)などがある
- ・ 方言数が特に少ない植物は、ササ(3)、ウメ(3)、スギ(6)、マツ(8)
- ・ コムギ(21)、イネ(23)、アワ(23)、ヒエ(24)などの主食も方言数が少ない
- ・ 草遊びに用いられるような身近な野草や自家消費の野菜の方言数は多い一方、主食、建材等については方言数が少ない傾向がある

3. 虫に関する方言

(出典：『虫と遊ぶ～虫の方言誌～』 斉藤慎一郎著 大修館書店(1996))

- ・ 『虫と遊ぶ～虫の方言誌～』は、全国高等学校の生物科教諭、全国小学校の校長等への参加者へのアンケート調査等の結果をとりまとめたもの
- ・ 主な虫に関する方言数は、ショウリョウバッタ(24)、オンブバッタ(5)、ミズスマシ(6)、アメンボ(6)、タガメ(5)、ギンヤンマ(8)、アリジゴク(9)、テントウムシ(5)

<ショウリョウバッタの例>

アオバッタ〔青バッタ〕(愛知県)、アカクチ〔赤口〕(高知県)、イネウラシ〔稲熟らし〕(江戸時代、播磨)、エボシダカ〔烏帽子鷹〕(江戸時代、伊勢山田)、オウマ〔お馬〕(奈良県桜井市)、オカンヌシ〔お神主〕(長野県)、キチキチバッタ〔擬声語〕(全国)、コメツキバッタ〔米搗きばった〕(全国)、モチツキバッタ〔擬声語〕(山口県)、ショウライムシ〔精霊虫〕(江戸時代、京)、タナバタ〔七夕〕(佐賀県)、フネコギバッタ〔舟漕ぎばった〕(福島県、茨城県)、ベコバッタ〔牛ばった〕(山形県、福島県)、ヤリバッタ〔槍ばった〕(宮崎県)

以下は、後ろ足を押さえたときの体の動きが機織をする女性に似ていたことから、女性の名前「お梅」「お染」に由来するとされるオマン(千葉県)、オンメ(神奈川県)、オソメ(神奈川県)、オンメハタオレ(神奈川県)、オサチ(三重県)、オキチ(和歌山県)、オウメバッタ(和歌山県)、オナツ(岡山県)、オベン(香川県)、ハタオリ(江戸時代)